

テロリスト 瞬時に照合

入国外国人の顔

法務省は2020年の東京五輪・パラリンピックをにらみ、日本に入国する外国人の顔写真とテロリストの顔の画像データを瞬時に照合する新システムを導入する。警察庁などと連携しテロリストの画像データの収集を進めており、今夏以降に運用を始める方針。水際対策を強化し、テロの発

法務省が画像システム 五輪にらみ対策

生を未然に防ぐ狙いだ。法務省は昨秋「出入国管理インテリジェンス・センター」を新設し、出入国に関する情報を分析する専門職員を配置した。世界の航空会社から入国者の氏名や年齢、入国までの経路などの乗客情報を事前に入手する対策も1月から開始。東京五輪に加え、今年5月に迫った主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）への対応も急ぐ方針だ。

日本に入国する外国人は成田や羽田をはじめ、全国の空港の上陸審査場を通過する際、顔写真の撮影が義務付けられている。法務省は写真撮影時、事前にサーバーに取り込んだテロリストの画像データと瞬時に照合する機能を全国の審査場に新たに追加する。16年度予算案で約3億円を計上。15年度補正予算と合わせ約11億円で整備する。

テロリストらの本格的な画像データの収集は昨年10月から始めた。警察庁など国内の捜査・治安機関のほか、外国の入国管理機関とも情報共有を進める。